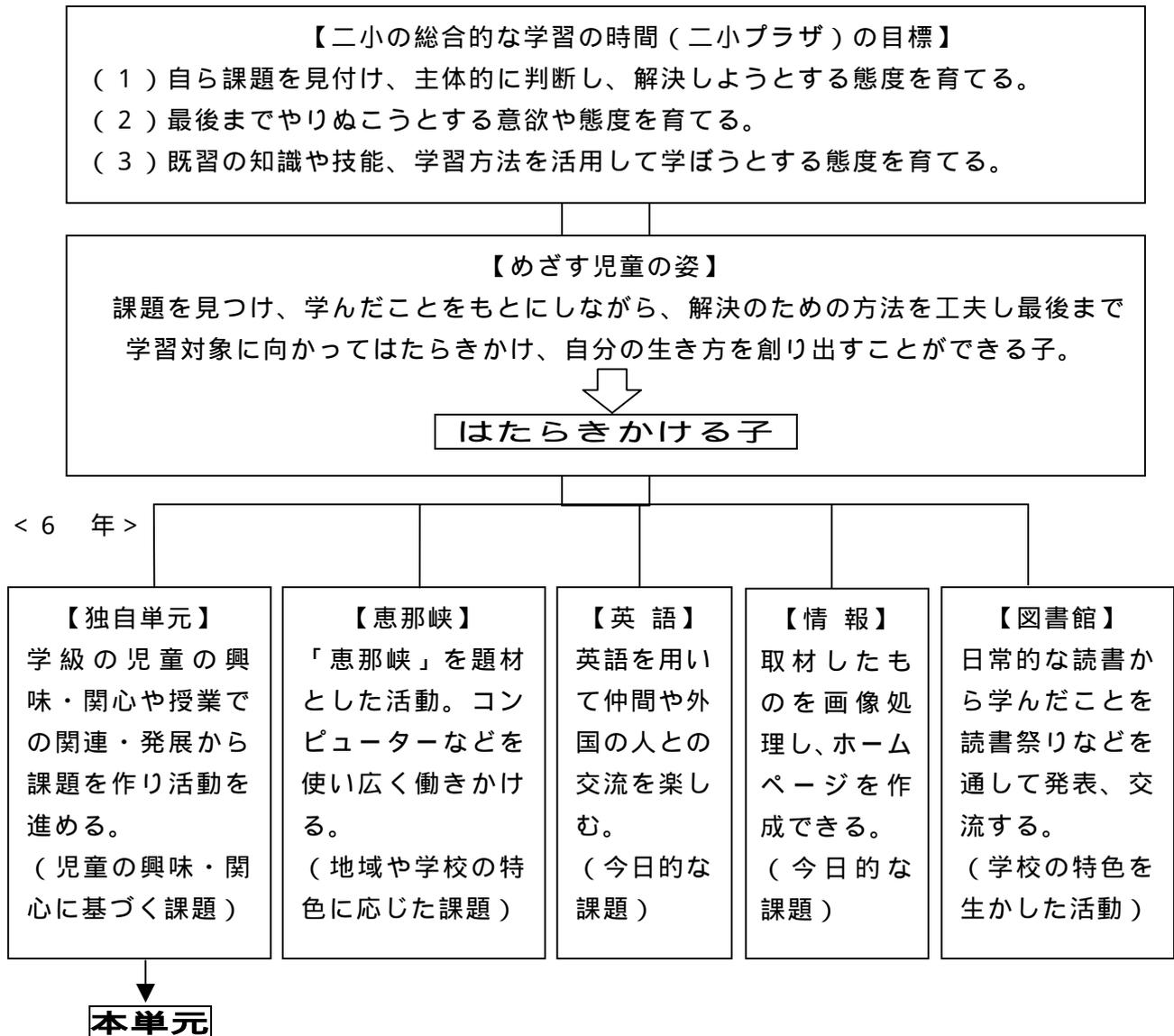


< 6年生独自単元の構想 >

1. 単元名

独自単元「つくりあげよう、クラスの宝」

2. 全体からみた単元の位置付け



3. 単元のねらい

（意欲・関心）

- ・よりよい学級の宝をつくりたいという願いをもって仲間と共に考え、活動することができる。
- ・宝づくりに向けての活動（話し合い・練習・準備・コンサートなど）を通して学級に対する所属感を高め、学級の中での自身のあり方や仲間のことを考えることができる。
- ・自分たちの歌を聞く人の立場になって考え、自分ができるとは何かを見出し、積極的に関わろうとすると共に、その関わりを通して満足感や自己有用感を味わうことができる。

（学び方）

- ・自ら課題を見付け、主体的に追究し、解決することができる。

- ・課題を追究するにあたり、見通しをもって計画、準備、練習することができる。
- ・教科（音楽・国語等）で身につけた学び方を生かして、自らの課題を解決していくことができる。
- ・自分の考えが相手に伝わるよう、その根拠や他の発言との共通点・相違点を明らかにして話すことができる。

4. 本単元を仕組んだ意図

前述した通り、本校の総合的な学習の時間は、大きく5つに分類される。その中でも「独自単元」は、児童の興味・関心を出発点とする活動であり、児童自身が活動を提案し、決定し、進めていくという点で他の3つの活動とは質的に異なるものである。また、この独自単元は「総合的な学習の時間」の理念に最も寄り添ったものであり、本校の総合的な学習の時間（二小プラザ）の中核をなすものである。そのため、学級でのテーマ作りには十分な時間をかけ、全員が意欲をもてるものを見つけることが大切であると考えた。

独自単元の内容について話し合いをはじめると、児童に次のような視点を与えた。

- | |
|--|
| 1、クラス全員が参加できるもの。 |
| 2、一生懸命取り組むことにより、学級目標に近づいていけるもの。 |
| 3、みんなで話し合ったり、協力し合ったりしながら取り組めるもの。 |
| 4、クラスや学年、学校だけで閉じてしまうものではなく、いろんな人に関われるもの。 |

このような視点をもとに話し合いを行うと、「八の字なわとび」「30人31脚」「合唱」が出され、それぞれの活動のよさや予想される活動の広がりについて意見交流を行った。どれも、1～4のほとんどの視点をクリアしており、話し合いは3時間にもおよんだが、最終的には、「誰もが努力すればできる」という理由から、全員が同じように取り組める「合唱」に決定した。

子ども達と話し合って決めた主な活動の見通しは次のようなものである。

校内でのコンサート	保育園や老人ホームなどの校外でのコンサート
他学年との歌の交流会	学級の歌づくり
オリジナルCDづくり	他の学校との交流

独自単元の題材として「合唱」を中心に据えた教師側の意図は2つである。

1つ目は、多様な活動が考えられるということである。合唱に取り組む中で実にさまざまな活動が予想される。その中の1つ、「学校でのコンサート」を成功させるだけでも、乗り越えなければならない課題が山積みである。「校内のどこでやるか」「どんな曲をどんな順で歌うか」「どんな練習をするのか」「多くの人に聴いてもらうためにどんな宣伝をするか」など話し合わなければならないこと、飾り付けや宣伝のためのポスターなど作らなければならないこと、そして、よりよい歌声にするために練習しなければならないことなど、その課題は実に多様であり、それだけ子ども達も多様な体験ができると考えたのである。

2つ目は、多くの人と関わるができるということである。いろいろな人との関わりは、子ども達の活動を活性化させ、活動の推進力となっていくものである。合唱の場合、聞く人はもちろんのこと、一緒に歌える仲間、アドバイスしてもらえる先生方などたくさんの人たちとの関わりが予想される。また、その年齢層も幅広く保育園児から、お年寄りまで関わることも可能である。